

実践事例「新聞に触れる機会を多く設けるための日常的な取組」 (北区立滝野川第二小学校)

新聞コーナーの運営

- 本校には、広報・新聞委員会という委員会があり、5・6年児童が、新聞コーナーを運営しています。「朝刊の仕分け」・「一面記事を掲示」・「滝二タイムズ（校内新聞）の発行」が主な活動内容です。
- その日の朝刊から気になる一面記事を掲示しています。掲示するときに掲載した児童本人も新聞記事に触れ、掲示してある場所を通る児童も立ち止まり読んでいる姿が見られました。初めは掲示することを忘れることもありましたが、今は教師の指示がなくても児童が主体的に活動できるようになってきました。
- 毎月校内での行事などをもとに「滝二タイムズ」を発行しています。委員会の児童が構成を考え、インタビューを行い、記事を分担して書いて完成させています。



朝の新聞の仕分け



滝二タイムズ

NIE タイム

- 4～6年生は火曜日に不定期ではありますが、NIE タイムを設けています。この時間で行う活動は様々ですが、「新聞ビブリオバトル」や「一面記事の読み比べ」などを行っています。
- 同じ記事に対しても各新聞社で書き方が異なっていたり、記事に対する考え方が違っていたり、新たな発見をしたりする機会となっています。



1つの班で行う活動



1つの記事に対する意見交換

取組の成果

- 新聞に触れる機会が増え、ニュースなどに興味・関心をもつ児童が多くなりました。
- 全校児童に興味をもってもらうために、広報・新聞委員の創意工夫する力が付きました。
- 授業のまとめなどで新聞を作成する際に、各新聞社の新聞の書き方を参考にして書く児童が増えました。

今後の展望

- 「滝二タイムズ」を全ての児童が読んでいるわけではないので、読んでもらう工夫が必要です。